

報道関係者各位

『IQVIA ジャパン* トップライン市場データ』

2018 年、国内医療用医薬品市場は 4 年連続 10 兆円超、2 年連続減

2018 年(1 月－12 月)、10 兆 3,374 億円(前年比 1.7%減)

2018 年第 4 四半期(10 月－12 月)、2 兆 8,027 億円(前年比 1.9%減)

- 2018 年(暦)では薬価ベースで 10 兆 3,374 億 71 百万円(前年比 1.7%減)。4 年連続で 10 兆円を超える一方、2 年連続で前年を下回った。
- 2018 年の市場別では、「病院」市場が前年増で、「開業医」・「薬局その他」2 市場は 3 年連続で前年を下回った。
- 2018 年第 4 四半期では薬価ベースで 2 兆 8,027 億 18 百万円(前年比 1.9%減)。
- 2018 年四半期毎の前年比は、第 2 四半期 1.3%減、第 3 四半期 3.5%減、第 4 四半期 1.9%減と 3 四半期連続の前年比マイナス成長。(2018 年第 1 四半期 0.0%)

*2018 年 4 月 1 日から、クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社およびアイ・エム・エス・ジャパン株式会社は、IQVIA(アイキューヴィア)ジャパングループとして、新たな社名と経営体制で活動しています。

2019 年 2 月 15 日、IQVIA ジャパングループ(本社:東京都港区、会長:湊方彦)は、2018 年(1 月－12 月)と、2018 年第 4 四半期(10 月－12 月)の日本医療用医薬品市場(薬価ベース)を、「IQVIA ジャパン トップライン市場データ」として発表しました。

IQVIA ジャパングループは、日本のヘルスケア産業の発展と透明性の創造、および社会の皆様に日本のヘルスケア市場についての理解を深めていただくため、市場規模や薬効、製薬企業および医薬品の売上、処方、疾病に関するトップラインデータをメディアや医療・医学の研究に携わっている学術研究機関に提供しています。トップラインデータを開示することで、弊社は皆様と情報の共有化を図り、日本のヘルスケアの発展に貢献したいと考えています。

【2018 年(1 月－12 月)】日本医療用医薬品市場トピックは以下の通りです。

- 当該期間の日本医療用医薬品市場は、薬価ベースで前年を率で 1.7%、額で 1,770 億円余下回る 10 兆 3,374 億 71 百万円。4 年連続で 10 兆円を超えつつ、2 年連続で前年を下回った。

- 病院市場(病床 100 床以上)は、4 兆 5,403 億 10 百万円(前年比 0.7%増)。開業医市場(病床 100 床未満):2 兆 1,155 億 49 百万円(同 2.3%減)。薬局その他市場(主に調剤薬局):3 兆 6,816 億 11 百万円(同 4.1%減)と、病院以外の 2 市場の成長は 2016 年以来 3 年連続マイナス成長。
- 売上規模による上位 10 薬効のうち、「L01 抗腫瘍剤」は 2017 年で初めて 1 兆円を超え、2012 年度から 7 年連続でトップを維持し、前年比の成長は、2016 年の 16.8%、2015 年の 9.7%に次ぐ 9.6%で伸長。
- 売上げ規模の上位 10 製品では、2017 年 11 月発売の C 型肝炎経口治療剤のマヴィレットハイゴウがランクインと同時にトップ。2017 年 2 月発売のがん免疫療法剤キイトルーダも 6 位でランクイン。

【2018 年第 4 四半期(10 月-12 月)】日本医療用医薬品市場トピックは以下の通りです。

- 当該期間の日本医療用医薬品市場は、薬価ベースで前年比 1.9%減の 2 兆 8,027 億 18 百万円。2018 年第 2 四半期 1.3%減、第 3 四半期 3.5%減で、今四半期を含め 3 四半期連続のマイナス成長。
- 市場区分では、病院市場(病床 100 床以上)が、1 兆 2,289 億 07 百万円(前年比 0.4%増)。開業医市場(病床 100 床未満)は 5,971 億 22 百万円(同 2.6%減)と第 2 四半期から、薬局その他市場は 9,766 億 89 百万円(同 4.3%減)第 1 四半期からそれぞれ連続のマイナス成長。

*** IQVIA ジャパン「日本医薬品市場統計」における「薬効」は ATC 分類に準拠しています。**

「ATC 分類(Anatomical Therapeutic Chemical Classification)は、薬の消費量に関する国際的な統計を取るために考案された医薬品の分類法。WHO の医薬品統計法共同研究センター(Collaborating Centre for Drug Statistics Methodology)で統括管理されている。薬効、作用部位・器官および化学的特徴によって 5 段階レベルで分類され、原則的に一成分の主薬効に対して 1 つのコードが付与される。」

(公益社団法人 日本薬学会「薬学用語解説」より抜粋)

****IQVIA ジャパン「日本医薬品市場統計」における「販売会社レベル」と「販促会社レベル」の定義は以下の通りです。**

- 販売会社レベル:卸店に対して製品を販売し、その代金を回収する機能を持つ製薬企業。
- 販促会社レベル:MR による学術宣伝を通じて販促活動を行なっている製薬企業。

IQVIA について

IQVIA (NYSE:IQV)は、先進的かつ高度な分析力と機能、革新的テクノロジー、および臨床試験サービスをライフサイエンス業界の皆さまへ提供する世界的なリーディング企業です。IMS Health と Quintiles の統合により誕生した IQVIA は、ヒューマン・データ・サイエンス(分析の精緻さとデータサイエンスの明晰さを、拡大し続けるヒューマンサイエンスの領域に対し活用すること)を用いることにより、ヘルスケア企業の皆さまが臨床開発とコマーシャル領域におけるこれまで無いアプローチを、新たなイマジネーションの下で発展させ、イノベーションを速め、ヘルスケア・アウトカムの改善をより一層加速させることを支援します。私たちの原動力である「IQVIA CORE™」によって、IQVIA は実務実行力を伴いながら、大規模な分析、革新的なテクノロジー、そしてスペシャリストによる幅広い専門知識、これらが交差する地点に、実用的且つ唯一無二のインサイトを提供しています。私たち IQVIA は、現在 5 万 8,000 人が、世界 100 以上の国と地域で活動しています。

IQVIA は、患者の皆さまの個人情報保護の分野においても、世界をリードしています。医療関係者の皆さまが、疾患のパターンを特定し、より良いアウトカムの実現のために必要である明確な治療方針や治療法の関連づけに資する規模での情報を収集・分析すると同時に、様々なプライバシー保護のための技術や安全対策に取り組んでおります。IQVIA が持つインサイトや実務の実行力は、治療・治癒の実現に向かい尽力するバイオテクノロジー企業、医療機器メーカー、製薬企業、医学研究機関、政府機関、保険者やその他様々な医療関係者の皆さまによる疾患そのものや人間の行動、サイエンスの進歩に対する更なる理解の深耕を支援します。IQVIA の詳しい情報はこちら (www.IQVIA.com) をご覧ください。日本向けの URL はこちら (www.iqvia.co.jp)

※IMS Health と Quintiles のグローバル統合ブランド“クインタイルズ IMS”は、2017 年 11 月 6 日(米国東部標準時)に“IQVIA”となりました。日本法人では 2018 年 4 月 1 日をもちまして IQVIA ジャパングループとなりました。

本件に関するお問合せ先

IQVIA ジャパン グループ

広報マーケティング

広報担当

TEL 03-6894-5420

Email jp.coms@iqvia.com